



全国自治団体労働組合連合

ふりーじあ 第20号
発行日：平成27年9月
自治労連教宣部発行

本部 〒114-8508 東京都北区王子本町1-15-22 北区役所B1 全連協事務所内 (03)3907-5177

地域の祭り

やっぱり日本は
素晴らしい！
素晴らしい日本は
素晴らしい！

日本各地の祭り。それは、地域らしさあふれる素晴らしい日本の文化。私たちの仲間の地域で行われるさまざまな祭りを前号に引き続き紹介します。今回は熊本県荒尾市で行われた荒炎祭を紹介いたします。

荒炎祭(こうえんさい)

8月2日(日) 熊本県荒尾市

平成27年8月2日(日)に第22回あらお荒炎祭を荒尾運動公園ソフトボール場で開催しました。
荒炎祭は、荒尾市の資源を「山の炎(小岱山の恵み)」「海の炎(荒尾干潟)」「大地の炎(万田坑)」「人の情熱の炎(宮崎兄弟)」の4つの炎にたとえ、シンボルとして開催しています。

今年、賞金30万円を賭け、本物の石炭をスコップで容器に投げ込み競い合う「石炭積みレース」、地元の特産品を存分に堪能できる「ふるさと 四ツ星市場」、荒尾市の資源を幻想的に表現し行進する「行灯パレード」、そして翼の折れたエンジェルが代表曲の「中村あゆみスペシャルライブ」の4事業を荒炎祭の柱とし、2万5千人のお客様に楽しんでいただきました。
万田坑が世界遺産に登録された直後であったためか、石炭積みレースはもろんのこと、行灯パレードでもテーマを「わたしのまちの万田坑」とし、出場団体の皆さまが思い思いに表現し、会場を盛り上げました。

祭りのクライマックスには、中村あゆみさんのライブを行い、さよの踊りとの共演など、夏の暑さも吹き飛ばすほどの賑わいをみせ、盛大に終了しました。
今後も地域の活性化につながる祭りのあり方を探求し、荒尾の魅力を発信していきます。皆さんも是非おいでください。

【荒尾市役所新職員組合書記長 西卓也】

【宮崎兄弟】
宮崎兄弟とは、荒尾市で生まれ育った宮崎八郎、民蔵、彌蔵、滔天の兄弟です。

明治維新が起こり、日本がようやく近代化への道を歩み始めた頃、自由民権運動をはじめ、西欧列強からのアジア解放という、日本という国の枠を越え、海の向こうに大志を抱いた男たちです。



第11回ユース部全国代表者会議が 福岡市で開催されました

8月29日(土)から30日(日)の2日間にわたり、福岡市博多区において、各単組からユース世代21名の参加のもと「第11回ユース部全国代表者会議」が開催されました。

このユース部全国代表者会議は、各単組の次世代を担うユース部員同士が同世代の仲間たちと交流を深め、情報共有などにより、各単組での問題解決やユース世代の企画力向上など、さまざまな目的で行われています。

自治労連の将来を担う世代の学習の場であり、また、全国組織としての考え方や方向性を確認できる大きな意味を持つ会議です。



【人前で話す】

まずオリエンテーションにおいて、人前で話す経験を積むために、自己紹介をしていただきました。

緊張している人や、話すのが得意で慣れている人などさまざまでしたが、そこは個性。それぞれがユース世代ならではの、将来性を感じるキラリと光る自己紹介を行いました。

【人事院勧告について】

続いて、我々の生活や組合活動において重要な要素となる人事院勧告について、その制度や勧告内容の解説をユース対策部の金原剛蔵さん(大村市職員組合執行委員長)が行いました。給与制度、人事院、労働基本権といった基本的な事項について説明し、今年の人事院勧告の内容、各単組がある県のラスパイレース指数について解説を行いました。まだ難しく感じた参加者もいたようですが、この会議で学んだ事をきっかけに、今後、人事院勧告や人事委員会勧告に興味を持ち、それらを意識しながら給与明細を確認するなどして、たくさん経験を積んでいただければと思います。

【組合行事を企画しよう】

次に、各参加者の交流や情報交換をしつつ、4班に別れて「ユース目線で考える組合行事」のグループワークを行いました。実際に単組で行うと思われる一通りの流れ、つまり、行事を企画し予算を要求した上で実現させるといった想定のもと、ユース対策部も助言者として加わりながら作業にあたりました。毎年行われる定期大会や歓送迎会などを含む年間計画を設定した上で、今回企画する組合行事

西都市役所職員組合第44回定期大会が開催されました

西都市役所職員組合は、去る8月28日(金)に市内のホテルにおいて、平成27年度第44回定期大会を開催いたしました。

先日の役員改選において、窪田栄美委員長の就任が承認され、また執行委員にも若手メンバーを多く迎へ、活力あふれる新体制となりました。

我々を取り巻く状況は依然として厳しいものではありませんが、少数ながら若手組合員の加入もあり、これから期待が持てる吉事となりました。

引き続き組合員の新規加入促進など、若手目線の斬新なアイデアを取り入れながら、新執行部体制で今後も頑張りたいと思います。

末筆ながら、ご来賓としてご臨席賜りました唐田書記長を始め、皆様から頂戴しました多数のご祝辞に対しまして、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。【西都市役所職員組合書記長 田爪正常】



友愛会創立を記念する会が開催されました

100周年から毎年8月1日に行われている友愛会創立を記念する会が今年も開催され、103周年となる今年、来賓に神津里木生連合事務局長、高木義明民社協会会長、谷藤悦史政策研究フォーラム理事長をお招きして行われました。冒頭、服部光朗会長の挨拶では、日本の女性の強さについてのお話がありました。

前回W杯覇者というプレッシャーの中、今大会準優勝というなでしこジャパンの成績は、前回の優勝より価値があり、体格が外国勢に比べ圧倒的に不利な中、本当に素晴らしい結果だったと絶賛しました。

また、1932年の不況時代に賃金カットやクビ切りなどに対して翌年ストライキによって労働条件を確保した、松竹のタッキーこと水の江滝子さんや、レビュウガールだった笠置シズ子さんは、当時10代の少女であり、その彼女らの起こした行動を考えると、やはり当時から女性は強かったし、たいしたものだと改めて実感したとのことでした。

戦後強くなったのは靴下と女性と言われていますが、女性は戦前から強かったということですね。



【熱血金原講師とえびのTシャツを着た参加者】



事の開催日を設定し、そこから逆算して、予算要求や組合員へのお知らせ、また、行事終了後の反省会まで、具体的な内容を検討していただきました。

企画の内容については、企画検討の基本である5W1Hや6W2Hを取り入れて、目的を明確にして協議を進め、皆さんに楽しんでもらえることを前提に、ユース世代にとって魅力を感じる内容かつ、個性溢れる企画が提案されました。

予算についても、個人負担金額や単組負担金額を詳細に設計し、さらには怪我をしたときの保険を盛り込むなどして、説得力ある要求ができる企画となりました。最終活発な議論が交わされ、ユース世代ならではの斬新なアイデアで、それぞれの班においてユニークな企画が完成しました。【次頁へ】

ユース部全国代表者会議

2日目

ユース部全国代表者会議の2日目は、前日のグループワークで作りに上げた企画内容を班ごとに発表し、ユース対策部が各単組の執行部役として発表を聞いて質疑し、その質問事項について再度グループ協議をしてから対応策を発表するという模擬交渉を行いました。

それぞれ班の企画内容が発表され、ユース対策部も先輩の貴様を見せ付けるべく、詳細部分までさまざまな質問をぶつけ、費用対効果といった予算的な面も議論しました。

各単組事情に応じたアレンジ次第で、実現可能となる企画内容の仕上がり、参加者たちの表情には満足感が感じられました。



懇親会でサプライズ

初日の会議終了後の懇親会は、えびの市役所職員組合の参加者の皆さんの段取りで行われました。とても細やかな気配りで、参加者全員が楽しい時間を過ごすことができました。また二次会では、当日誕生日だった参加者のために即興でお祝いを準備していただき、参加者の連帯感や仲間意識を強く感じつつ感激した夜になりました。



次回も参加したい

参加者の多くは、他に参加する人がいないなら参加してみようかな？というくらい気持ちで参加したようです。みなさまからいただいたアンケート結果では、全員から「とても楽しかった」「役に立った」と回答があり、また、ほとんどの方が



「次回も是非参加したい」とのご感想をいただきました。ユース代表者会議の魅力については、さまざまな学習ができることや、他の単組の仲間たちとの情報交換や情報共有ができることが大きな魅力であるとの回答が多数でした。

今回の会議の経験を活かし、各単組において今後のユース活動がさらに発展することを期待しています。

【ユース部長 田爪正常】

グループワークでの企画一覧

Table with 3 columns: 事業名 (大分満喫ツアー), 目的 (組合員の交流メンタルヘルス (リフレッシュ)、オルグ), 行き先 (日帰り由布院旅行), 工夫 (スノボ&温泉を企画したが、一体感が薄いため温泉に絞って計画した。)

Table with 3 columns: 事業名 (紅白対抗運動会), 目的 (健康増進と組合員同士の交流を深める), 会場 (学校のグラウンド), 工夫 (ケガの心配や、家族連れの場合の子どものケア、雨天の場合なども想定して企画した。)

Table with 3 columns: 事業名 (女子力UP事業), 目的 (女性に組合の魅力を感じてもらう), 会場 (コテージ), 工夫 (男女に別れ料理対決! 料理が苦手な人は買出しで頑張るなど、みんなが主役になれること。)

Table with 3 columns: 事業名 (日常業務からの脱出), 目的 (職員間の横のつながりを強化し、悩み事等も相談できるような働きやすい職場環境をつくるため), 会場 (ハウステンボス), 工夫 (チーム戦でリアル脱出ゲームを行い仲間意識を高め、信頼関係を築いていく。)

自治労連第25回 代表者・書記長会議のお知らせ

- 【日時】10月24日(土) 25日(日)
【会場】遊福旅館(山口県下関市)
【テーマ】
① 人事評価制度について
② 自治労連について

人事院勧告の取組み

平成27年8月6日に人事院から国家公務員の賃金につきまして、政府と国会に勧告されました。

人事院勧告の内容については、民間における賃金の引上げを図る動きを反映して2年連続で月例給とボーナスが引き上げの勧告となり、2年連続で引き上げ勧告は、1991年以来の四半世紀ぶりとなります。

4月分の月例給について、民間給与が国家公務員給与を平均1469円(0.36%)上回る結果となりました。そのため、俸給表の水準を引き上げるとともに、給与制度の総合的見直しにおいて平成28年度以降に予定していた地域手当の支給割合の引上げの一部を実施することとなりました。また、ボーナスについても、民間事業所における支給状況を反映して、民間が公務を上回ったことから、年間4・20月分に引き上げることとなります。

しかしながら、引き上げ勧告があったにもかかわらず、我々、自治労連の仲間の中でも、「財政状況等により俸給表の水準を引き上げについて実施しない」という提案を受けている単組があります。

今後、地域間で部分的なラスパイレス比較が行われれば、地域の給与をさらに引き下げる厳しい提案も懸念されます。また、昨年度の人事院勧告での給与と制度の総合的見直しにより、本年

4月から俸給表の水準を平均2%引き下げている単組、引き下げを見送る単組で、今年度の人事院勧告への対応が単組により異なりますが、我々、自治労連では、職員給与は、労使間で交渉し合意を得て議会の条例で決定すべきものであると考えており、その給与決定の「唯一のものさし」は、公務員の労働基本権制約の代償として存在する人事院勧告が基準であると考えています。

人事評価制度の取組み

国家公務員については、平成19年に国家公務員法が改正され、既に人事評価制度が適用されています。

が、地方公務員についても、公務に対する住民の信頼の確保及び公務能力の一層の向上の観点から、国と同様の措置を講ずることが必要との考え方に立ち、これまで平成19年及び平成24年の2度に渡り、改正法案が国会に提出されましたが、いずれも衆議院の解散に際し審議未了による廃案となってきました。この度、地方公務員について、人

事評価制度の導入等により能力及び実績に基づく人事管理の徹底を図ろうという趣旨で第186回国会において、「地方公務員法及び地方独立行政法人法の一部を改正する法律案」が衆議院、参議院ともに可決され、平成26年5月14日に公布されました。

地方公務員法の改正法の施行期日は、「公布日から起算して2年を超えない範囲において政令で定める日」とされており、現時点では平成28年4月1日からの施行を前提として進められている中、単組においては、改正法の趣旨に則った人事評価制度の導入・改善の交渉を進められている段階と思われれます。

人事評価制度の基本として、人事評価により職員間に格差をつけることが目的ではなく、人材育成のための重要なツールに他なりません。被評価者の能力や仕事ぶりを評価して本人にフィードバックすることにより、職員の能力開発、人材育成につながり、被評価者を成長させ、組織の業績・成果を向上させていくために行うものであり、平成28年4月の人事評価制度の本導入に向け、その役割、評価方法、反映方法等、各種人事評価に関する情報を集約するとともに、「人事評価制度のあり方」について代表者書記長会議にて研修、ワークショップを実施いたします。皆様のご参加をお待ちしております。



人勧を勉強せんば!

きばっど!

【人事院勧告】

人事院が、国会、内閣、関係大臣その他機関の長に行う、国家公務員の一般職職員の「給与その他の勤務条件の改善及び人事行政の改善に関する勧告」の総称で、人勧とも略称されます。

【人事委員会勧告】

地方公務員は労働基本権が制限されているため、都道府県や政令指定都市には独立した第三者委員会である人事委員会の設置が義務づけられています。民間の給与水準と比較して、地方公務員の給与の改定等を勧告します。

【ラスパイレス指数】

ラスパイレス指数とは、国家公務員の基本給を100としたときの地方公務員の給与水準を表すものです。ドイツの経済学者、エティエンヌ・ラスパイレスが1864年に提案した、加重平均によって算出された指数で、職員構成を学歴別、経験年数別に区分し、地方公共団体の職員構成が国の職員構成と同一と仮定して算出します。